



柏市増尾・新柏地域ふるさと協議会

地区社協部 地区懇談会

つながりから共に創る 地域コミュニティの未来

令和8年度 地区懇談会

まず、みなさんに質問です

地域活動は、 10年後も今のままで 続けられるでしょうか？

私たちの地域を、これからも笑顔で、
安心して暮らせるまちであり続けるために、
一緒に考えてみませんか？



この地区懇談会では、地域の現状や課題を共有し、
これからの地域コミュニティのあり方をみんなで考えていきます。

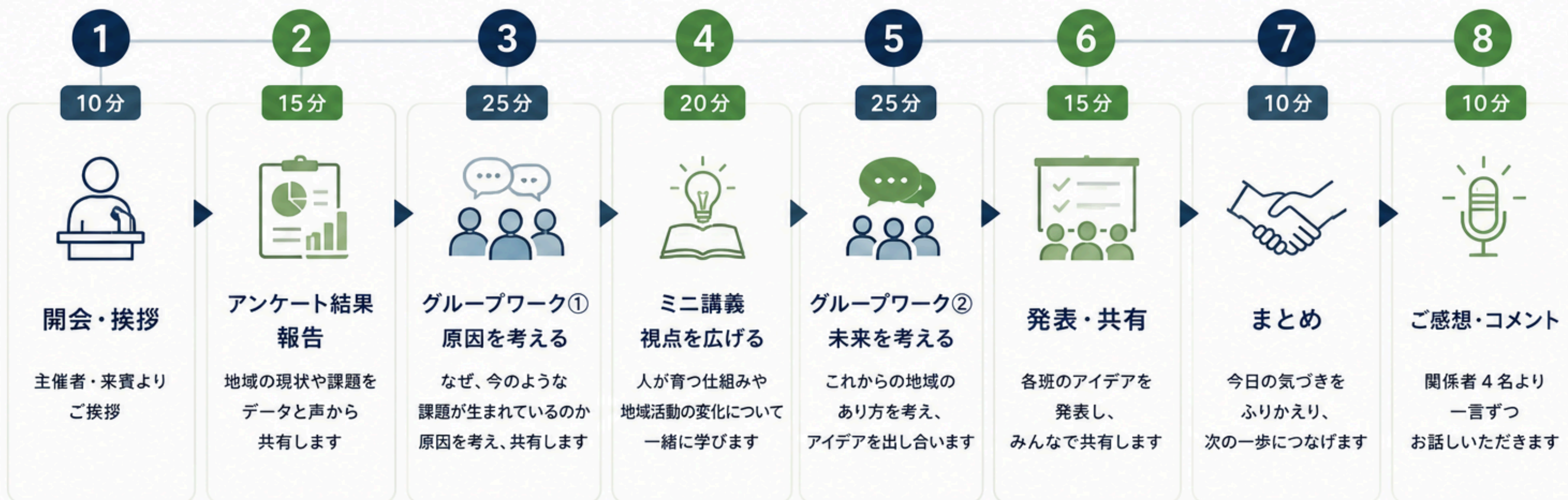
今日の目的と流れ

みんなで考え、つながり、次の一歩を見つける2時間にします。

今日の目的

地域の現状や課題を共有し、これからの地域コミュニティをみんなで考えます。

一人で悩まず、みんなで知恵を出し合い、明日からできる「小さな一歩」を見つけましょう。



この懇談会は、答えを出す場ではなく、「一緒に考える」ことがゴールです。
自由な意見交換をよろしくお願いします！

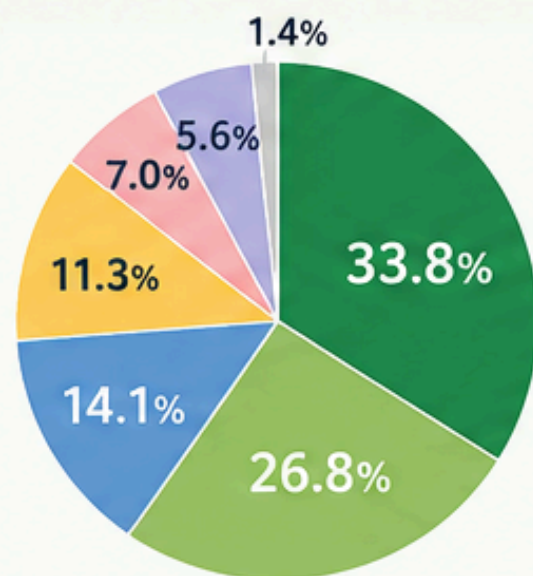


事前アンケート結果まとめ

地域の現状や課題について、多くのご回答をいただきました。

回答数：71件

1 回答者の年齢層



70代	24人 (33.8%)
60代	19人 (26.8%)
80代以上	10人 (14.1%)
40代	8人 (11.3%)
30代	5人 (7.0%)
50代	4人 (5.6%)
10代以下	1人 (1.4%)

70代・60代で約6割を占めています。

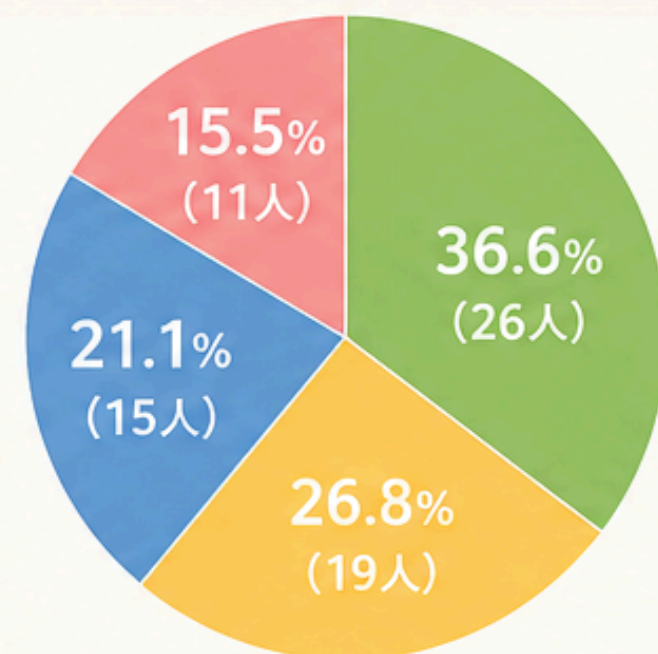
2 地域で気になっている課題

(複数回答)



※複数回答のため、合計は回答数を上回ります。

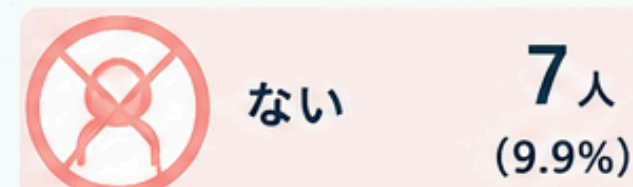
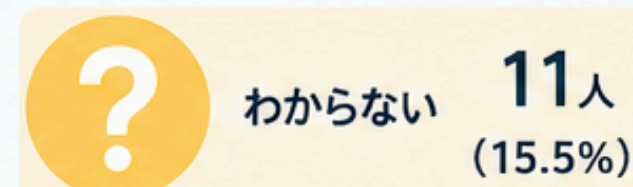
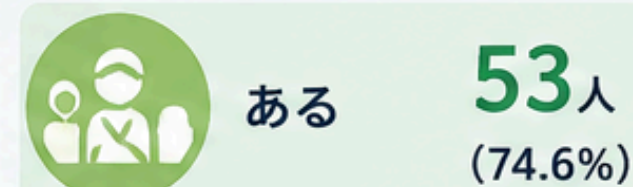
3 地域活動への参加状況



時々参加する	26人 (36.6%)
あまり参加しない	19人 (26.8%)
よく参加する	15人 (21.1%)
参加したことがない	11人 (15.5%)

「時々参加する」が最も多い結果となりました。

4 困ったときの相談先



※割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。



アンケートから 見えてきたこと

防災・防犯や担い手不足、高齢者の見守りなど、多くの地域で共通する課題が挙げられました。一方で、「地域活動に時々参加している」という方も多く、地域に関わるきっかけづくりや参加しやすい仕組みづくりが重要であることが見えてきました。



自由記述より
(一部抜粋)

自由記述から見えてきた地域の声

アンケートには30件を超える自由記述が寄せられました。

数値では見えない、地域の皆さんの“生の声”を整理すると、次の6つのテーマに分類できました。



1 担い手不足・役員の負担

- 「同じ人が何役も担っていて、負担が大きいです。」
- 「役員の高齢化が進んでいて、将来が心配です。」
- 「毎年役員が変わるので、引継ぎが大変です。」
- 「会長の負担が大きすぎると感じています。」
- 「若い世代が関わるきっかけが少ないです。」



2 情報発信・運営方法について

- 「LINE回覧板を導入してほしいです。」
- 「SNSやアプリなどをもっと活用したいです。」
- 「必要な情報が探しにくいです。」
- 「活動していること自体が知られていません。」
- 「ネットだけだと高齢者がついていけません。」



3 地域活動をもっと魅力的に

- 「活動に参加するメリットをもっと伝えたい。」
- 「子どもとシニアが交流できる場がほしい。」
- 「お祭りなど、交流の機会を増やしてほしい。」
- 「不用品バザールなど新しい企画をやりたい。」
- 「地域ポイント制度があったら面白いのに。」



4 高齢化への対応

- 「一人暮らしの高齢者が増え、心配です。」
- 「ゴミ当番などの負担が難しくなっています。」
- 「地域活動そのものの維持が厳しいです。」
- 「買い物支援や見守りの仕組みが必要です。」
- 「高齢者が安心して暮らせる環境を整えたい。」



5 地域とのつながり・交流について

- 「子育て世帯が地域とつながる機会がほしい。」
- 「子ども会がなくなり、交流が減りました。」
- 「ご近所付き合いが少なくなりました。」
- 「顔の見える関係を取り戻したいです。」
- 「世代を超えてつながる場が必要です。」



6 地域への期待・提案

- 「地域活動をアップデートしていきたい。」
- 「アウトソーシングも検討すべきだと思う。」
- 「ふるさと協議会の役割をもっと知ってほしい。」
- 「地域全体で考える場が必要だと思います。」
- 「新しい仕組みづくりにチャレンジしたい。」



アンケートから見えてきたこと

自由記述からは、「地域活動をやめたい」という声ではなく、「もっと続けやすくしたい」「もっと良くしたい」という前向きな数多く寄せられました。



地域には課題だけでなく、
解決のヒントもたくさん
ありました。



では、本当の課題は何なのでしょうか？

アンケート結果やご意見をもとに、“本質的な課題”を3つの視点で整理しました。



① 人の課題

担い手が不足し、偏っています

- ✓ 役員の高齢化が進み、負担が大きくなっています。
- ✓ 同じ人が何役も担っているケースが多くあります。
- ✓ 若い世代の参加や、関わるきっかけが少ないのが現状です。

➡ 新しい人が関わりやすく、無理なく続けられる仕組みが必要です。



② 仕組みの課題

情報や運営の仕組みが追いついていません

- ✓ 情報が届きにくく、活動が見えづらい状況です。
- ✓ デジタル活用や情報共有の方法が十分ではありません。
- ✓ 役員の負担が集中し、引継ぎや運営が大変です。

➡ 情報がわかりやすく、効率的に運営できる仕組みづくりが必要です。



③ つながりの課題

世代や立場を超えたつながりが弱くなっています

- ✓ ご近所づきあいや多世代交流の機会が減っています。
- ✓ 子どもや子育て世帯が地域とつながる場が少ないです。
- ✓ 高齢者の見守りや支え合いの輪が十分ではありません。

➡ 世代や立場を超えて、支え合える関係づくりが必要です。



3つの課題は、つながっています

人の課題、仕組みの課題、つながりの課題は、それぞれが影響し合っています。一つの課題だけを解決しても、根本的な解決にはなりません。

人の課題
(担い手・負担)

仕組みの課題
(情報・運営)

つながりの課題
(交流・支え合い)

だからこそ、みんなで一緒に考える場が必要です。

地区懇談会では、みなさんの経験やアイデアを持ち寄り、地域の未来につながる“解決のヒント”を一緒に見つけていきましょう。



次のステップ

次のページからは、課題解決のヒントとなる「アイデアの種」をご紹介します。



みなさんの声をもとに、つながり、支え合い、未来をつくる地域を一緒に目指しましょう！

あなたの地域ではどうでしょうか？

アンケートの結果や自由に出た声をもとに、
皆さんの地域のことを一緒に考えていきましょう！



アンケートから見た課題



☑ 担い手不足・役員の負担

同じ人が何役も担っており、
若い世代の参加が少ない



☑ 高齢化の進行

役員の高齢化や一人暮らし高齢者の増加、
見守りや支え合いが必要



☑ 情報発信・運営方法

情報が届きにくい、活動が知られていない、
デジタル活用や情報共有の方法が課題



☑ 多世代交流の不足

世代を超えた交流の機会が少なく、
つながりが弱くなっている



☑ 地域とのつながりの希薄化

ご近所づきあいや子育て世帯とのつながり
が減少している



☑ 防災・防犯への不安

災害時や防犯面での不安が多く、
備えや仕組みづくりが必要

皆さんの地域でも 同じですか？

うちは
どうだろう？

他の地域と
違うかも？

こうなったら
いいな！

今できる
ことは？



ワークシートの項目

1

あなたの地域で
困っていることは何ですか？



●
●
●

2

なぜその課題が
起きていると思いますか？



●
●
●

3

現在、地域で取り組んでいることや
工夫していることはありますか？



●
●
●

※4ページのアンケート結果をもとに作成しています。



グループで話し合ってみましょう！

- ✓ 正解はありません
- ✓ 他の地域との違いも大切なヒントになります
- ✓ いろいろな意見を出し合い、気づきを共有しましょう



昔の地域はどうだった？

— 地域のつながりの中で、人が育ち、役割を担っていました —

ひと昔前の地域は、自然と人が集まり、子どもも大人も一緒に過ごす時間がたくさんありました。その中で、あいさつや声かけ、ちょっとしたお手伝いから、地域の担い手が育っていきました。



「あの時の経験が、
今の自分の自信につながっている」
そんな声が今も多く聞かれます。

昔はこんなことが当たり前でした

人がよく集まる
場や機会があった



お祭りや運動会、盆踊り、町内の集まりなど、大人も子どもも自然に顔を合わせる機会がたくさんありました。

子どもは地域の中で
育てられた



地域の大人が声をかけ、見内り、時には叱ってくれる。「地域の子どもは、地域で育てる」という意識が根づいていました。

役割を通じて、
自信とつながりが生まれた



ラジオ体操のリーダーや子ども会の役員、地域の行事のお手伝いなど、小さな役割が自信や誇りにつながりました。

自然に教え合い、
助け合う関係があった



困ったときは「お互いさま」。物の貸し借りや、ちょっとした手伝いが日常にあり、人と人とのつながりが強くありました。

若い人や子どもが、
地域に誇りを持っていた



地域の良さや伝統を大切に、「この地域が好き」「この地域の役に立ちたい」という気持ちが、自然と育まれていました。

こんな声もありました



地域の行事が、人とつながるきっかけになっていたね。



近所の大人がたくさんいて、子どもを見てくれていた。



役割を任されることで、子どもが変わっていったように思う。



地域が好きという気持ちが、自分の原動力になっている。



地域のつながりの中で、一人ひとりが支えられ、育ち、地域の一員としての誇りを持っていました。 ➡ この「**当たり前風景**」が、今は少しずつ変わってきています。



考えてみましょう

- ① 今の地域と比べて、良かったところはどんなことがありますか？
- ② 昔のつながりから、今の地域に活かせることは何でしょうか？



ポイント

昔の良さを知ることは、
これからの地域づくりの
ヒントになります。



人が育つ仕組み – 参加から役割へ –

人は、関わることで育ち、役割を担うことで成長します。

地域での経験やつながりが「自分も役に立てる」「やってみたい」という気持ちを育て、やがて地域の担い手へとつながっていきます。



大切なのは「経験の循環」

子どものころの小さな経験が、大人になってからの「やりがい」や「誇り」につながり、次の世代へのバトンになります。

人が育ち、役割を担うまでのステップ

① 知る・関わる

きっかけは小さな体験から



イベントや活動に参加し、地域の人と出会い、つながりが生まれます。

② 理解する・好きになる

地域の魅力や必要性を実感



地域のことを知り、「自分の地域が好きになる」気持ちが育ちます。

③ 関わり続ける

経験を重ねて自信がつく



何度も関わる中で、「自分にもできるかも」という自信ややりがいが生まれます。

④ 役割を担う

任されることで成長する



小さな役割からスタートし、「任される喜び」が次の成長につながります。

⑤ 次の世代へつなぐ

経験が循環し、地域が育つ

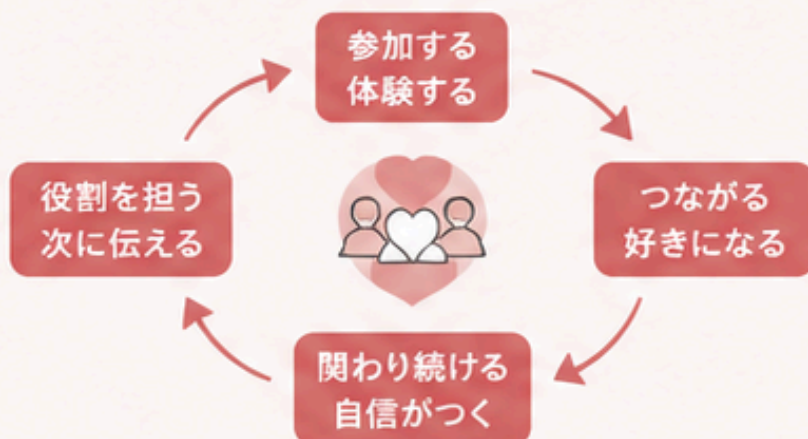


経験した人が次の世代を支え、地域全体の力が未来へとつながっていきます。



「参加する人」を増やし、「関わり続けたい人」を育てることが、未来の地域をつくれます。

こんなサイクルを目指します



地域の中には、たくさんの“育つ場”があります



お祭り・イベント



スポーツ・文化活動



清掃・環境活動



学校・PTA活動



高齢者との交流



ボランティア活動



考えてみましょう

- ① あなたの地域では、どんな「参加のきっかけ」がありますか？
- ② どうすれば、もっと多くの人「関わり続けたい」と思える地域になるでしょうか？



人が育つ仕組みを、地域みんなで作っていきましょう！



今は、何が変わったのでしょうか？

— これまでの当たり前が、少しずつ変わってきています —

社会の変化により、地域の担い手が育ちにくくなっています。

その背景を知ること、これからの地域づくりのヒントが見えてきます。



「昔はできていたのに、なぜ今は難しいのか？」
その変化に気づくことが、
地域をアップデートする第一歩です。

地域を取り巻く環境の変化

1 人口減少・少子高齢化



若い世代が減り、
高齢化が進んでいます。
担い手の数が
年々少なくなっています。

2 ライフスタイルの多様化



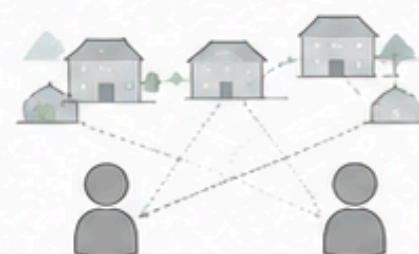
働き方や暮らし方が多様になり、
地域活動に参加する時間や
余裕を持ちにくく
なっています。

3 価値観の変化



「自分のことを大切にしたい」
「無理はしたくない」など、
個人の価値観が
より重視されるように
なっています。

4 地域のつながりの希薄化



ご近所付き合いや
世代を超えた交流が
減り、地域の中で
つながる機会が
少なくなっています。

5 情報・コミュニケーションの変化



デジタル化が進み、
直接会って話すよりも、
オンラインやSNSでの
やりとりが中心に
なっています。

6 行政や制度の制約



ルールや手続きが複雑で、
活動のハードルが
高くなっていることも
あります。



変化そのものは止められませんが、
変化に合わせて、地域のやり方を変えていくことはできます。



だからこそ、今こそ“アップデート”が必要です。



大切にしたい視点

- ✓ 変化をネガティブに捉えるのではなく、チャンスと考える
- ✓ 多様な人が、無理なく関われる仕組みをつくる
- ✓ これまでの「良さ」を大切にしながら、新しい方法を取り入れる
- ✓ 一人ひとりの小さな一歩が、地域の未来をつくる



考えてみましょう

- ① あなたの地域では、どんな変化を感じていますか？
.....
.....
- ② その変化に対して、私たちはどんな工夫ができそうですか？
.....
.....



変化を知れば、未来はもっと良くなる。次の一歩を一緒に考えていきましょう！



地域全体で育てる

— 一人ではできないから、みんなで支え合う —

子どもや若い世代を育てるのは、学校や家庭だけの役割ではありません。地域に関わるさまざまな人や団体が、それぞれの強みを持ち寄ることで、「育ちのネットワーク」が広がり、地域の未来が育っていきます。



「みんながチームになれば、できることはもっと増える」

それぞれができることを持ち寄り、
地域の子どもも、大人も、みんなで育っていく地域へ。

地域の育ちを支える主な担い手と役割（例）

学校・教育機関



- 学びの場の提供
- 子どもの成長の支援
- 地域との連携のハブ

自治会・町会



- 地域行事の開催
- 見守り・助け合い活動
- 地域のつながりづくり

民生委員・児童委員 社会福祉協議会



- 困りごとの相談・支援
- 福祉サービスとの橋渡し
- 地域の見守り活動

青少協・PTA・各種団体



- 子ども向け事業の企画・運営
- 体験や交流の場づくり
- 保護者や地域の活携

地域の企業・事業者



- 職業体験や学びの機会提供
- 地域活動への協力・協賛
- 人材や資源の提供

地域住民・ボランティア



- 見守り・声かけ・居場所づくり
- 特技や経験の活用
- 小さなことからの参加



大切なのは「つながり」と「信頼」

それぞれが得意なことを活かし、お互いを尊重し合うことで、子どもも大人も安心して関われる地域になります。

学校・
教育機関



自治会
町会



民生委員
児童委員
社協



子ども・若い世代



青少協・
PTA・団体



地域の
企業・事業者



地域住民・
ボランティア



みんなが「自分ごと」になることで…

子どもが育つ
環境が整う



安心して挑戦できる
場が増えます。

大人もつながり、
やりがい生まれる



世代や立場を超えた
つながりが広がります。

地域の未来が
もっと明るくなる



住みやすく、誇れる
まちになります。



考えてみましょう

- ① あなたの団体や立場だからこそ、できることは何がありますか？
- ② どの団体・人とつながることで、より大きな力を生み出せそうですか？



地域全体がチームになれば、子どもも大人も、ずっと笑顔でいられる未来が出来ます！



地域アップデートの事例

— 変えることで、地域がもっと元気に！ —

全国や身近な地域では、さまざまな工夫や新しい取組みが生まれています。
ほんの小さな「アップデート」でも、地域に大きな変化をもたらしています。



「やってみよう！」の一步が、
未来の地域をつくれます。
参考になるアイデアをヒントに、
自分たちの地域に活かしていきましょう。

全国・地域のアップデート事例

事例① 多世代交流の場づくり



空き家や空き店舗を活用し、
誰でも集える「地域の居場所」
をつくっています。

ポイント

気軽に集える場所があることで、
人と人のつながりが生まれ、
見守りや助け合いも自然に広がります。

事例② デジタルでつながる地域



LINEやアプリを活用して、
情報共有やイベントの案内、
安否確認などをスムーズに。

ポイント

情報がすぐ届くことで、
参加しやすくなり、
若い世代の関わりも増えています。

事例③ 子どもが主役の取組み



子どもが企画・運営する
マルシェやイベントで、
自信や社会性を育てています。

ポイント

子どもが主役になることで、
地域への愛着が育ち、
大人も元気をもらえます。

事例④ 企業との連携



地域の企業や事業者が、
人材・資金・ノウハウを提供し、
地域活動をサポート。

ポイント

地域と企業がつながることで、
新しいアイデアや資源が生まれ、
活動の幅が広がります。

事例⑤ 小さなチャレンジの連鎖



草取りや清掃、お祭りなど、
小さな活動から始めて、
参加の輪がどんどん広がっています。

ポイント

「できること」から始めることで、
無理なく続けられ、
地域の力が育っていきます。



上手いく秘訣は「3つの視点」

どの事例にも共通する、成功のポイントがあります。

① 人を巻き込む

一人で頑張らず、仲間を増やす



② 小さく始める

できることから、試してみる



③ 楽しく続ける

楽しさが、続ける力になる



あなたの地域でも、きっとできる！

特別なことをしなくても大丈夫。
みんなで知恵を出し合えば、あなたの地域にも
「アップデート」のきっかけが見つかります。



考えてみましょう

紹介した事例の中で、取り入れてみたいものはどれですか？
あなたの地域で、できそうなアイデアはありますか？



グループワーク② 自分たちの地域で考えてみよう!

— 未来のために、地域の「アップデート」を考えよう —

これまでの学びや事例をもとに、「自分たちの地域でアップデートしたいこと」を考えます。
小さな一歩から、地域の未来は変えられます。みんなでアイデアを出し合ひましょう!



「できることから始める」ことが、
地域の未来をつくる第一歩です。
自由な発想で、たくさんのアイデアを
出し合ひましょう!

考えるテーマ（4つの視点）

1 自分たちの地域・団体で アップデートしたいことは何か?

今の課題や、もっとよくしたいこと、
変えたいことを書き出してみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



2 アップデートによって、 どうなってほしいか?

その取り組みによって、地域や人が
どんな未来になってほしいか考えましょう。

.....

.....



3 実現するうえで、 障壁になるものは何か?

取り組みを進めるうえで、
どんなことがネックになるが考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



4 誰と協力すれば、 最初の一步を踏み出せるか?

一緒に取り組みそうな人や団体、
使えるような資源を考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



進め方

1 個人で考える（5分）

上の4つの視点について、
それぞれ考えを書き出します。



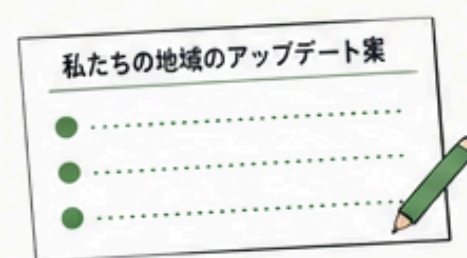
2 グループ内で共有する（10分）

一人ずつ発表し、意見やアイデアを
出し合ひ、気づきやヒントを広げます。



3 班としてまとめる（10分）

4つの視点をもとに、私たちの「地域の
アップデート案」を1つにまとめます。



4 次ページで発表!

各班3分程度で発表します。
他の班のアイデアからも学び合ひましょう。



自由な発想、大歓迎!

どんな小さなアイデアでもOK! 「こんなことができたらいいな」をたくさん出しましょう。



良いアイデアは、地域の宝物です。

みんなの想いをつなげて、地域の未来をつくっていきましょう!

グループ発表 みんなで共有しよう！

— みんなのアイデアから、未来のヒントを見つけよう —

各グループで考えた「地域のアップデート案」を発表して、
新しい気づきやつながりを広げましょう！



他のグループのアイデアを知ること、
自分たちの考えもさらに深まります。

「いいね!」「それ、やってみたい!」
そんな共感や新しい発見を楽しみましょう！

発表のポイント（1グループ：3分程度）

✓ 簡単に・わかりやすく

専門的に話す必要はありません。
みんなに伝わる言葉で！



✓ 大事なポイントだけ

「一番伝えたいこと」を
しぼって話しましょう。



✓ みんなの想いをのせて

チームで考えた内容として、
想いや願いも一緒に伝えましょう。



✓ 他の意見も大切に

他のグループの発表も
しっかり聞きましょう。

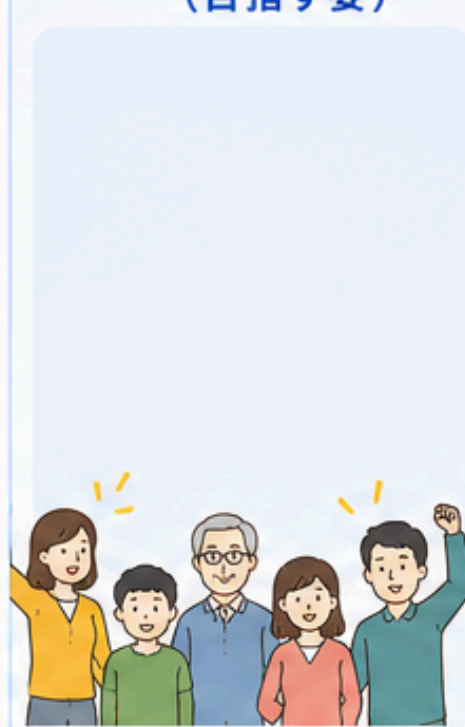


発表する内容（例）

1 アップデートしたいこと （私たちの課題・テーマ）



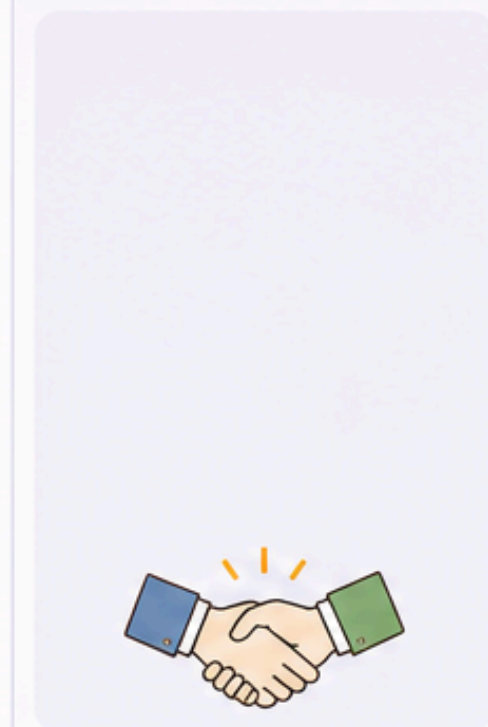
2 どんな未来に なっていきたいか （目指す姿）



3 最初の一步 （やってみたいこと）



4 一緒に取り組みたい人 （協力者・つながり）



みんなの発表から学びましょう！

- ✓ 「参考にしたい!」と思えるアイデアはありましたか？
- ✓ 自分のチームの考えと似ているところは？
- ✓ 新しく気づいた視点はありましたか？



「いいね!」「それ面白いね!」
そんな声を通じて、
地域の未来が
もっと広がります！



みんなで考えたアイデアは、地域の未来をつくる“種”です。

小さな一歩から始めて、みんなで育てていきましょう！



アイデアを、一人で抱え込まない

— 地域の声を、ふる協・地区社協部・CIX班で支える —

グループワークで出たアイデアは、町会長・自治会長ひとりで実行するものではありません。
地域の課題に向き合うときこそ、ふるさと協議会・地区社協部を使ってください。

つながることで、
できることはもっと広がる！

みんなで知恵を出し合い、
一緒に行動していきましょう！



これまでの流れ（上から下へ）

行政からの情報や取組が、順に下りてくる仕組み



行政

（市・県・国など）



ふるさと協議会

（地域全体の調整）



自治会・町会

（現場での対応・実施）

「依頼・連絡が下りてくる流れ」になりがちでした

これからの流れ（下から支え合う）

地域の声や課題から動き出し、みんなで支え合う仕組みへ



自治会・町会の声

（地域の課題・やってみたいこと）



ふるさと協議会・地区社協部・CIX班がサポート！



一緒に考える
（調査・情報共有）



つなぐ
（人・団体・制度）



試す・形にする
（計画づくり・実行支援）



広げる・伝える
（情報発信・共有）



地域の課題解決・魅力ある地域づくりへ！

（みんなの力で、より良い地域に）

こんなサポートができます！



隣の自治会と一緒に進める

同じ課題を持つ仲間と連携し、
知恵や力を合わせて取り組みます。



地域団体や学校とつながる

青少協・PTA・ボランティア団体など、
地域のさまざまな力をつなげます。



行政・社協に相談する

制度や支援メニューの紹介、
窓口との調整をお手伝いします。



ふる協全体の取組みにする

地域全体に広げることで、
より大きな力・成果につなげます。

NEW



CIX班が伴走する

今年度からのCIX班が、情報収集・
整理・提案・実行まで伴走支援します。

地域を変えるのは、一人の力ではなく、つながりの力です。

ふるさと協議会・地区社協部・CIX班は、みなさんの「やってみたい！」を全力でサポートします！

次のページでは、
今日の気づきを「小さな一歩」につなげます。



まとめ：今日の気づきを、明日からの一歩へ

～ 一人で抱え込まず、みんなで動く地域へ ～

今日の地区懇談会で得た気づきやアイデアは、すぐに形にならなくても大丈夫です。
 できることから少しずつ。みんなでつながりながら、地域の未来をつくっていきましょう！

今日のキーワード



つながり



支え合い



共創



対話



一歩

これからのステップ（3つのステップ）

① 持ち帰る・共有する

～ 地域に戻って、話してみよう～

- ・ 今日の内容を、役員や住民の方と共有する
- ・ 「やってみたい！」と一緒に話し合う
- ・ 小さなことからアイデアを育てる



② つながる・相談する

～ 一人で悩まず、つなげよう～

- ・ ふるさと協議会・地区社協部・CIX班を活用する
- ・ 隣の自治会や団体とつながる
- ・ 行政や社協などにも相談してみる



つながることで、できることが広がります！

③ 試してみる・広げる

～ 小さく始めて、大きく育てる～

- ・ できることから、まずやってみる
- ・ うまくいったことを共有し、広げていく
- ・ 地域全体の力で、未来をつくる



今日の地区懇談会で得られたこと

- ✓ 地域に共通する課題を共有できた
- ✓ 他地域の状況や考え方を知ることができた
- ✓ 地域を変えるアイデアが生まれた
- ✓ 協力できる人や団体がいることを確認できた



今日、答えを出す必要はありません。

一つの気づきやアイデアを地域に持ち帰り、
誰かと話すことが最初の一歩です。



地域を変えるのは、一人の力ではなく、つながりの力です。

みんなで支え合い、未来につなげるまちづくりを進めていきましょう！

